

## 第 31 回香川県子ども・子育て支援会議 会議記録

- 1 開催日時 令和 8 年 1 月 29 日（木） 10 時 00 分～11 時 40 分
- 2 開催場所 香川県庁 12 階 第 1・2 会議室
- 3 出席委員 相本委員、有澤委員、植田委員、越智委員、金倉委員、川崎委員、川西委員、後藤委員、白井委員、白石委員、紫和委員、杉本委員、田中委員、為定委員、中橋委員、西岡委員、前田委員、宮武委員、吉村委員  
計 19 名  
(欠席 石原委員、岡委員、岡本委員、日下委員、島村委員、渡邊委員)  
25 名中 19 名が出席し定足数を満たしており、本会議は有効に成立。
- 4 傍聴者 なし（定員 10 名）

### 5 議事

#### ○香川県こども計画（案）

(事務局) (香川県こども計画（案）（資料 1）について、資料 2～4 に基づき変更点等を説明。)

(会長) 「香川県こども計画」について、皆様のご意見やパブリックコメントへの対応を経て、素案から案となった。事務局からの説明も踏まえ、内容についてどうしてもという点があれば、ご意見いただきたい。

(委員) 85 ページで使われている、「自閉症」の正確な表現として、医療教育行政では、だいたい「自閉スペクトラム症」に統一され、また普通に使われているので、表記を「自閉スペクトラム症（ASD）」と修正してはどうか。

(会長) ほかになければ、「自閉症」の部分は修正し、先ほど事務局からご説明のあったこの内容で、計画案として、提出するというところでよろしいか。

(一同) 異議なし

(会長) 誤字脱字や明らかな表記ミスがあれば、事務局の方にご連絡いただきたい。また、どうしても修正が必要な状況が発生した場合は、事務局でご対応いただいた上で、最終的には会長一任ということで、よろしいか。

(一同) 異議なし

(会長) 以上で、本日子定していた議事は終了した。香川県子ども・子育て支援会議での議論も踏まえ、今回、香川県こども計画として取り纏めたことで、一区切り終えたところだが、ここからは「4 その他」として、せっかく各分野の専門の委員様や協議会各種団体の代表の皆様が集まっていますので、今後に向けて、ぜひ香川県こども計画の基本理念を実現するための、具体的な様々なアイデアや意見、提言などを、自由に各委員様からご発言いただければと考えている。こども計画やさしい版、アンケート調査結果などご説明いただいたが、具体的な施策を進めていく上で、ぜひ各委員様から様々なご自由にご意見もいただき、より良いもの

になればと思っているが、いかがか。

※概略のみの記述としています。

(委員) アンケート調査結果について、「今の自分のことを大事に思いますか」という問いに対して、当てはまらないと回答したこどもが、1割以上もいることに対してショックで、そういったネガティブな回答になるこどもたちにどういったアプローチができるのだろうか、胸を痛めて、アンケート結果を受け止めた。

今後、クロス集計で、学年ごとに傾向をつかんでいくことで、どうアプローチできるかを検討する材料になるかもしれないので、クロス集計なども見せていただきたいと思った。

もう一点、私事になるが、最近孫ができ、おばあちゃんになった。こどもが社会で関わっていく中で、「自分の話を聞いてくれる大人」というのは、保護者や学校の先生だけでなく、祖父母や親戚なども含まれると思う。祖父母の存在は大きい。改めて、そういった視点で「孫育て」について、当時の世代の考えでなく、今の時代に合わせて、祖父母なども含めた地域の人、今の子育て家庭にどう関わっていけるか。関わり方について学ぶ機会があればいいと思い、そういう取組みができたらいいなと思った。

(会長) 指標に関するアンケートについて、今後の予定をわかる範囲でお答えいただければ。

(事務局) 今回、目標指標を設定し、急いで1月からアンケートを実施したところ。今後も、教育委員会と連携して、現場の負担を減らしつつどういった形で実施するかを検討をしながらも、毎年1回は必ず調査したい。

(委員) 祖父母との関わり方という観点からいうと、今回の民法改正で、養育費の差し押さえの簡素化に加え、これまで父母のみが認められていた面会交流が、条件付きであるが、祖父母についても明記されるようになった。民法の世界でも祖父母が孫に関わる権利が広がってきていると感じる。結婚するとなると、父母と祖父母の関係でいろいろ難しいところはあるかもしれないけど、うまくやれば、子育ての戦力になると思ったので、そういうことも含めて、いろいろ取組みを検討いただければ。

(委員) アンケート調査について、こども計画で若者層が加えられたという中で、今後若者層に対してアンケートをとる予定はあるのか。今の若者がどういう気持ちを持っているのか、この香川県で暮らしたいのか、ということを知りたい気持ちがある。

高松市の産業振興課が取り組んでいる U40 (アンダーフォーティ) の会議で、高松市に通信簿を付けようというアンケートを実施した。学生層だと比較的調査しやすい部分もあるのかなと思うが、若者層、例えば 30 歳くらいの青年期の方などがどういう気持ちを持っているのかを知りたいなと思うところもあり、今後検討いただけたらありがたい。

(事務局) 若年層への調査について、例えばご指摘の通信簿を付けるという形で実施したり、幅広く、統計をとったり、アンケートをとったりするとなると、それは若年層に対する心情の調査というよりも、香川県の政策についての満足度調査になり、そういった世論調査については、毎年県でも実施している。

一方で、支援が必要な若者に向けて、心情面も含めてアンケートをとることについて、どうやってできるのかなど、なかなか難しいのではと思うところもあるが、いただいたご意見も踏まえ、できるできないではなく、しっかり考えていきたい。

(委員) 動画を見て、改めてこども目線に立って、こども計画が正しく理解できた気がする。アンケ

ートは、受ける方としてはそのことに対する認識を深めるきっかけになる。ぜひ毎年この動画を見せてアンケートをとっていただきたい。

こどもは、自分の状況が変わっているのも、また新たな目で見ることができのかもしれない。学校現場も忙しいかもしれないが、この5～10分を大切にしてください、まずはこどもたちに周知をしていただきたいと強く思った。

また、こどもに関わる祖父母の方々にも、広く伝えていただきたい。本当にいい基本理念や施策だと思う。

(事務局) ホームページへの掲載に加え、今後はこども計画を学ぶための出前授業といった形も考えているところ。ぜひお声かけいただきたいと思う。

(会長) 令和8年度に大学の授業でも、1コマ分、こども計画で時間をとろうと考えている。教員や公務員を目指す中で、特にこどもの心と健康に関わる場所に焦点を当てて実施したい。現職の教員も参加したりするので、その際は、ぜひ県には出前授業をお願いしたいと思う。また、各委員におかれても、広報啓発として、県民に広げていく役割をご協力いただきたい。

(委員) 少子化の影響もあり、3世代同居がかなり減っている。高齢者が一人で住んでいることで、介護なども課題となっている。

自分がこどもの頃は3世代で暮らしていて、いっしょに住んでいると経済的なことに加え、ちょっとしたときに当たり前を手伝ってくれていた。今は祖父母と別々に住んでいるところが多く、そのちょっとした、距離的・時間的なことや遠慮などで、お願いできないことは、負担が大きいと思う。逆に遠慮しなさすぎることも問題となったりすることもあり、祖父母も子育て家庭もひとり親も、みんなちょっと窮屈に感じていたり、余裕がなかったりするのだと思う。

だからこそ、3世代の良いところ、祖父母の関わり方など、工夫できたらいいと思う。そういう点でも、かがわ子育てステーションが増えてきて、相談の役割の一つを果たしていると思うが、ステーションがどれくらいのことをできているのか、子育て家庭が安心して頼れているのか、調査や評価を行い、現実を見える化することも大事だと思う。ステーション同士の横のつながりや、行政との連携などを、今後も工夫していきたいと考えている。

(委員) 計画にも必要なことの記載はされているが、もっと本質的なことを深く考えていかないといけないと思って、改めて考えた。ひとり親家庭は、孤立しやすかったり、就労支援もあるものの、働き続けることが難しかったりする。また、ひとりで子育てしながら働く中で、いろいろな変化があることについての理解であったり、自由な働き方ができなかったりで、諦めるということがあるので、そういった環境整備が必要だと思う。

孫育てについて、実感として、同居の家族の理解が、何よりも大切だと思う。そこでメンタルダウンして働けないということもあるので、いろんな関係性をどうしていくか、特に地域の中で広げていくなど、行政の窓口もあるかもしれないが、平日日中ではつながりにくいので、行政だけではできないところ、例えば地域のNPOやこども食堂、またはピアサポートなど、地域のコミュニティとして関わっていくことが大切だと、いつも感じている。

一点だけ気になったのが、養育費に関する取決めと親子交流の推進の部分で、親子交流ありきで、それが目的にならないようにするのは大事なことだと思っている。こどもの最善の利益や、こどもの意見や意向を尊重しながら、と記載はあるものの、実際はなかなか難しく、こどものそばにいてくれる人が、こどもの最善の利益なのか、交流することがどうなのかなど、そ

ういったことをちゃんと向き合って考えることがとても大事だと思う。なので、交流が絶対というふうにならないよう、見守りや段階的な交流など、こどもの視点に立って、こどもの権利を守るための、とても大事なところなので、この機会に意見させていただいた。

資料4の「自分の話を聞いてくれる大人がいますか」について、この大人とは誰なのかなあと気になったところ。家族だけではないと思うが、家族以外にひろがっているのであれば、こどもまんなか社会が広がっていることにもつながっていくと思うので、そういったことにも注目していければ、希望が持てることにつながるのではないかと思った。

(事務局) かがわ子育てステーションについて、量的な広がりだけでなく質の向上の取組みとして、研修事業も実施しているところ。わははネットさんに委託していることから、委員からお話しいただければ。

(委員) 研修会の切り口としては、乳幼児だけでなく大きなこどもも含めた、こどもの意見を聞くということはどういうことなのかとか、こどもが生まれる前や妊娠期からの相談といったアプローチもしている。総じてこどもまんなかに向けて、ステーションの職員さんのフォローアップといった位置付けで実施している。

いかんせん強制ではないので、全てのステーションが受けているわけではないこと、また現場を回すだけで手いっぱい、研修に参加できにくい環境があること、などを意見として聴いている。

この機会に計画のことで1点だけ。49ページの(2)「妊娠前からの切れ目ない相談・支援の充実」の中で、市町やNPO法人以外にも、社協さんなども取り組んでいることから、「等」という言葉が続くことになるが、やはり「NPO法人等」としたほうがよいのではないか。ご検討いただければ。

(会長) 一つの文章の中で「NPO法人等」と「支援等」と、「等」という言葉がつく単語が続くので、後者は「多様な支援」くらいに置き換えてもいいかもしれない。

(事務局) 委員からの面会交流の話について、昨年の民法改正による共同親権においても、同様に、「会うことに危険がある」という議論があり、そういったことを十分踏まえながら対応を進めていきたいと考えている。

(会長) 委員の話から、社会の中で、相談できるいろいろな人と人とのつながりが複数持つこと、一つだけでなくいろんな関係性の中でつながっていくことは非常に重要な点と思った。

(委員) 民生委員・児童委員について、県内に約2,200人いるが、その8割が高齢者で、高齢化が進んでいる中、先ほどからの孫との関わりの話がつながってくる。そういった意味でも、このこども計画を民生委員・児童委員にも周知いただきたい。

出前講座も実施するとのことで、ぜひ各地区の協議会などでもお願いしたい。また、昨年12月の改選で、約1/3の委員が変わっており、新しい委員にも周知いただければありがたい。

私事となるが、1月15日をもって香川県の会長を退任することとなった。子ども・子育て支援会議の中で、各団体、専門家の皆様から貴重なご意見をいただき、今後民生委員アドバイザーの役割で、各地域の民生委員に話をしていく中で、ぜひ活かしていきたい。

次回の会議からは、新たな代表者が来ることとなるので、よろしくをお願いしたい。

(会長) 出前授業については、ぜひ快くお引き受けいただき、気軽に申請できるよう願います。

(委員) 香川県の子ども・子育ての方針となるものができたこと、そこに参加させていただいたこと

にうれしく思う。

国の大きな動きとして、若者支援の充実を目指していくという中で、私自身も関わっており、そういった国の若者支援の政策について、香川県でも、ぜひ一番に手を挙げるぐらいの勢いで、若者への支援も充実していけたらいいなと思う。

(委員) こども計画について、いいものができたと思っている。

最近SNSで高校生が暴力をふるっているところを動画にして、世界に流している。その子たちの表情が、何か楽しそうに笑いながら人を殴っている。

私にはその感覚がわからなくて、「心の教育」ということをもっと訴えていかなければと思った。そういうことを、これからのこどもたちにどう育てていけばいいのか、特に乳幼児期からの育ちが大事になってくると感じている。

そこで、この計画をもっとたくさんの人に読んでもらいたいというご意見について、私もそう思う。こどもたちだけでなく、もっと多くの大人、父母も祖父母も理解して、こどもをちゃんと育てていける社会を作っていく、そういう香川県になってほしいと思った。

(委員) 1点質問したい。アンケート調査の回答率が、もしわかれば教えていただきたい。

(事務局) 対象児童生徒が7万9,212人、回答が5万436人ということで、回答率は63.7%となる。小学校が75%、中学校が63.9%。高校は53.9%となっている。

(委員) 不登校とかなかなか回答できないこどもたちの思いや気持ちが気になったので、質問させていただいた。

計画の策定にあたって、専門の幼児教育だけでなくいろいろな若者支援、児童支援、思春期のこどもたちへの支援というものがつながっているということを改めて感じた。こどもまんなかを目指していくにあたって、乳幼児期の自己肯定感を大事にしながら、少しでも力になれるように今後がんばっていきたいと感じた。

(委員) 105ページの「ひとり親家庭に対する相談支援の強化」にあたって、まずは行政で様々な支援をしていることの周知が大切だと思っていて、先日、イオン高松で、高松市が資生堂さんと協力してメイクアップセミナーを実施した。ひとり親に限らず実施し、中学生のこどもと親の両方にメイクをしたところ、二人ともみるみる表情が明るくなって、見ているこちらもうれしくなった。

ひとり親支援として、フードバンク、これから始まる特別給付金、生活応援給付金など、様々な現金給付というものもしっかり実施していく中で、こういったこどもたちの幸せとか何か心温まる取組みやイベントも、県も高松市も考えていけたらと思った。行政にもいろいろな支援や窓口があるということを、訴えて続けていきたい。

(委員) いち保護者の代表という形で、会議に参加させていただいた全体的な感想になるが、難しい話は正直わからないけれど、この会を通して、自治体の方々がいろいろと考えていて、また、困ったら頼れるところがあるということを知り、毎回いろいろと新たな発見があった。しかし、多くのお父さんお母さんなどの子育て世代や、こども、特に自分から助けてと言える年になったこどもには多分伝わってなくて、だからこそ周知していくことが大切だと、毎回感じているところ。頼れるところあっても、それがどこにあるのか分からないと、どうしたらいいか分からない、どこに言えばいいか分からないという人も、結構いるのと思うので、そういった周知が広がると、もっとSOSが出しやすい世の中になると思った。

自分も3世代同居だったが、現在は核家族であるが、近所の人とよい関係を築けているので、近所のネットワークづくりも大事だと感じた。これからも自治体の取組みについて、自分でもなにか協力できることがあれば、ぜひ参加したいと、この会議の参加を通して感じた。

(委員) 保育所で働いているが、これからのこどもたちは少子化の影響で、認定こども園になったり、合併したりと、現場も大きく変わっていく中、それでも現場で、乳幼児期の関わりの大切さを考えながら、こども同士の交流、地域の交流、様々な世代の人との交流を、大事にしていきたい。そうやって、温かいやさしい気持ちの中で、こどもたちが大きく成長して行ってほしいと感じている。

会議を通して、専門の方々によるこどもたちのことを考えた貴重な機会に参加させていただき、勉強になるとともに、ありがたいと感じた。

(委員) 祖父母の関わり方について、九州の企業では、孫の出産でも特別休暇を付与する企業もあると聞く。子育てを父母だけに任すのではなく祖父母も関われるように、定年が65歳になるなどまだ働いている祖父母も心置きなく休暇がとれるように、という会社からのメッセージだそう。

計画について、事務局も各委員も尽力されて、いいものができたと思う。しかし、ここからがスタートで、計画ができて、それを実行に移していくことが大切だ。それにはお金とスタッフが必要で、今年4月から始まる子ども・子育て支援金制度により保険料に上乗せして徴収され、子ども・子育てのために使われるということだが、医療や介護、社会福祉などの現場のスタッフにお金が回って、処遇が改善されたり、魅力ある職場になったりと、現場のスタッフのモチベーションが上がるようにお金がうまく回るようにしてほしいと思う。

また、以前も申したが、香川県内の子ども・子育ての取組みが、市町に関わらず、どこでも受けられるようにすることが大切だと思うので、様々なサービスが県内均一に受けられるよう、引き続き県の方でもがんばっていただければと思う。

(委員) 私も、いい計画ができたと思うとともに、一方で、この計画をどのように進めていくのが大事だと思っていて、検証しながら、振り返りながら、また、新たにやらないといけないことができたなら、それをどの場で議論して進めていくのか、など、これからのことが気になった。

乳幼児期の心の育ちは、本当に大事なことだと思っていて、私たちが日々保育の現場で、職員とそういったことを話しながらやっているものの、例えば、お母さんがスマホを見ながら廊下を歩いて、こどもが後ろから自分の荷物を引きずりながらついていく光景を何回も見ている、お母さんに促したりもしているが、次の日も同じようシーンが続くことがやっぱりあって。

また、私たちの取組みの一つとして、運動会をするときに、「保育園の名前」と「こどもまんなか・運動会」を合わせて、例えば、「ふたば こどもまんなか 運動会」とし、保護者会でもこの名前の意図を丁寧に話して理解してもらっている。そして、イベントをするときにも、父母だけでなく、近所の方々など、いろんな方に来てもらえるように、保護者会役員が近所を回って案内し、職員が門前で丁寧に誘導するなどして、地域交流に働きかけている。

最近では、父親の送迎も多くなっているし、場合によっては祖父母の送迎も見られていて、育休をとる父親が増えているなど、社会的にいい傾向だと思っている。また、小学校に上がった卒園児にはイベントの時だけでなく、兄弟を迎えの際には顔を見せるように促している。家族がバラバラにならないよう、仲良くできるよう、今後も気を配っていきたい。

(委員) 社会的養護の立場の観点から、少子化が進んでこどもが減っていても、やはり社会的養護が必要なこどもの数は、減りつつあるが横ばいという状況である。児童施設に入所しているこどもの約7～8割が虐待を経験していて、また、発達障害を抱えているこどもも約3～4割、そのほか自閉症や多動性など様々な事情があって、親と離れて施設に入所している。ただ、施設には、地域の様々な人たちが来てくれて支援してくれて、寄附をいただいたりして、辛い思いもしながら、一方で、いろんな地域の関わりや地域の行事への参加ができていて、そういう面では、もしかしたら、一般のこどもたちよりも恵まれているのかもしれないと感じることもある。

ただやはり、どうしても人の問題があり、どのような取組みをするにしても、施設で働いてくれる若い方が入ってこない、持続していかないという問題があって、人材の確保が非常に難しい。

また、計画に記載されているとおり、こどもの意見表明を大事にしていて意見箱の設置、年に数回実施する、こどもとお菓子を食べながらくつろいでいろいろな話を聞くお茶会などもやっている。児童福祉施設は難しい面もあるけれど、行政や教育委員会、地域の様々な方々と連携しながら、こどもがいろんな選択肢を持てる社会になればいいと感じた。

(委員) よい計画ができたと思っている。

地域に目を向けると、自治会の加入率が減っていったり、またコミュニティ・スクールなど地域と学校、保護者をつなぐいろいろな取組みを実施したりしているものの、やはり地域によって取組みの格差ができていてと感じている。

そういった中で、子ども・子育て支援会議での皆様のご意見を参考にさせていただくとともに、この計画を前に進めていくためには、私たちが力を発揮していくことが大きいと改めて感じたところ。今回の会議でのつながりをはじめ、多くの団体に関わって、地域のつながりの輪を広げ、支援の輪を広がるよう、私も微力ながら、関わっていきたく感じた。

(委員) 会議の当初から参加してきたが、本当に充実した内容になったと思う。

香川県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の立場から、今、幼稚園のこどもも保護者もどんどん減ってきていて、PTAはコミュニティの一番小さなスタートではないかと考えているが、そこも多く退会している。「香川県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会」というものの、来年からは2市のみの協議会になる。それでも、こども計画にも記載しているように、家庭や学校、地域の方々など地域で支えていくというところで、保護者のネットワークと学校との関わりはと大事だなと思っている。仕事をしている保護者が増えている中、PTAの役員や負担などから、関わりたくないと思っている方も増えているかもしれないが、私自身PTAでいろんな方に相談したり意見を聞いたりすることで、自分が子育てするときに助かったという思いがとともあるので、ネットで調べたらなんでも出てくるかもしれないが、それでもやはり、人と人とのつながりが大事だと思うので、PTAとしてつながりをもっと広げていけるよう、がんばりたいと思う。

(会長) 計画を実現していくために、今後、それぞれの立場で活動していただく中、各市町などとの連携も重要になるが、そういったことも含め、皆様から様々なアイデア、ご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。

事務局からの連絡事項があれば。

(事務局) 次回の開催は、計画の進捗状況などを報告する場を、来年度、おそらく秋頃を目途に開催したいと考えており、また改めて案内する。

以 上